

令和4年度第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和4年4月25日(木)13:30~15:20

2 場所 福知山市役所 6階 農業委員会室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員、大久保委員 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	渡邊副市長、田村室長、谷口次長、井上補佐、川村
福知山公立 大学	川添学長兼理事長、西田副学長兼理事、岸本事務局長、山中GM、荻野GM、 竹元

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	委員長・職務代理選出	互選により青山公三委員が委員長に、委員長指名により大久保正明委員が職務代理に選出。
2	【議題(1)】 令和4年度のスケジュールについて	事務局から【資料1】、【資料2】により説明。
3	【議題(2)】 令和3年度及び中期目標期間に係る業務実績評価の方針について	事務局から【資料4】、【資料5】、【資料6】、【資料7】により説明。 福知山公立大学から【資料3】により説明。
4	【報告事項】 令和4年度事業計画について	福知山公立大学から【資料8】により説明。

5 次第

- (1) 開会挨拶 渡邊副市長
- (2) 議題(1): 令和4年度のスケジュールについて

【資料1】、【資料2】により、令和4年度のスケジュールを確認した。

- (3) 議題(2): 令和3年度及び中期目標期間に係る業務実績評価の方針について

【資料4】、【資料5】、【資料6】、【資料7】により業務実績評価の方針を説明。

(委員)

第1期中期目標期間の評価をするにあたり、どのような経緯、流れでその評価になったのかという中期スパンを見据えたうえで評価をしないと根拠が分かりにくいかと思

う。その点の評価方法について教えていただきたい。

(事務局)

第1期中期目標期間の積み上げでの評価になるので、これまでの評価を共有させていただく。

(委員)

良い評価の項目、また通常より低い評価になった項目は委員の中でどのような議論があってそうなったかなどを事務局から新委員に丁寧に説明して欲しい。

(青山委員長)

他に質問や意見はないか。

(全委員)

なし。

(委員長)

本件については「了承」することとし、本日承認した評価方針、実施要領等に基づき業務実績評価を行うこととする。では、今年度評価する、第1期中期計画及び令和3年度事業計画について法人より説明をお願いします。

法人から【資料3】により第1期中期計画及び令和3年度事業計画を説明。

(委員)

今後、法人が業務実績報告をするにあたり留意点を申し上げる。昨年度、新型コロナウイルス感染症の拡大で、全国の大学で、対面の授業ができなかった、感染した学生のケアが必要になった、海外留学が中止になったなどといった状況の中でも、福知山公立大学は大規模な大学ではできないような細やかな対応をしっかりとされたということ、実績の中で拝見することができた。であるので、新型コロナウイルス感染症の拡大がなければ気が付かなかったような様々な改善ができたのであれば、それは今後役立つものとしてしっかり記載いただきたい。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかったことを無理にできたかのように記載することはしないでいただきたい。また、従来の委員会でも、地元からの志願者をしっかり確保して欲しいということをお願いしてきた。先ほど法人からの説明で、全国から志願者がたくさんきているということであり、これは素晴らしいことであると思う。ただ、地元も大事にできるということが重要。令和4年度入試の志願者について、どのような要因で増加したのか可能な範囲で分析願いたい。就職率は95%であっても及第点であると思う。地元のどういう企業に就職したのか、第1希望の企業に就職できたのか、卒業生の定着率なども補足的にあればありがたい。それから、地域経営学と情報学をあわせたかたちで大学院を設置する構想について、運営費交付金だけでは研究施設の充実はできない部分がある。外部資金をいかに獲得していくか、科研費を獲得できれば間接経費を得られるので事務局の支援体制の充実にもつながる。外部資金についてはターゲットを明確に示して取り組んでいただければと思う。また、課外活動の施設など本来必要である教育施設が不十分であるということが、第1期中期目標期間で報告された。この部分は設立団体である福知山市にも努力いただくことが必要である。整理すると、この6年間の取組の強みと弱みを明確に示すことが大切。評価で2がつくことがだめ

ということではなく、そこは次に持ち越して、4に上げるという繰り返しができれば、地独法に定める評価が実質的な意味をもつのではないかと思っている。

(委員)

率直に申し上げて、年度計画は難解な言葉が多く理解がしにくい。具体的な内容を記述していただかないと評価できない。

(委員)

おっしゃる通りで、ここに掲げてある項目だけを見るとどう評価してよいのか分からないことがあると思う。そのようなときは別冊のパンフレットなどを見ると理解が深まる部分がある。法人の方でもできるだけ理解しやすいように工夫して実績報告を記述いただきたい。

(法人)

資料3は令和3年度にどういう事業に取り組むかという枠組みを示したものであり、今後作成していく実績報告は具体的な内容になる。年度計画はどうしても抽象的な内容の記述になる。実績報告では根拠資料も必要に応じて提示する。

(委員)

この6年間のうち最後の2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で、できなかった取組がある状況。資料7によると、新型コロナウイルス感染症の影響で代替策も実施できなかった場合は、評価不能とし、評価から除外するという事になっている。単年度だとあり得るが、6年間全体の評価をしようとするときに、前の4年でそれぞれ積み上げてやってきたことが最後の2年に新型コロナウイルス感染症のためできなかったことにより、前の4年も評価の対象から除くということにするのか、委員会として方針を決めることかもしれないが事務局でなにか方策があるか。

(事務局)

6年間の全体評価をどうするかは今後委員会で方針を固めていきたいと考えている。

(委員)

大学院の話があったが、JSTで地域に大学の技術を実装する取組に対する助成金が創設された。ぜひこのような助成金を獲得して欲しい。今後の業務実績の中で、新たな取組が見られることを期待している。年度計画の中にできるだけ数値目標を入れて欲しいということを申し上げてきた。目標数値と結果の数値の乖離の原因が何であったかということの分析も含めて実績報告をしていただけると大変ありがたい。

(4) 報告事項：令和4年度事業計画について

法人から【資料8】により第2期中期計画及び令和4年度事業計画を説明。

(委員)

「福知山モデル」はこれまでの評価委員会の中でも議論になった。これが「福知山モデル」であるといったことがまだまだ分からない状況ではあるが、先ほどの説明により令和4年度事業計画の多くの項目に「福知山モデル」をどう具現化するかが記載されていることが分かった。「福知山モデル」がどのようなものに育っていくか楽しみに

している。

(委員)

これまでは年度計画はできあがったものとして、実績報告の段階で初めて見て質問するようなものであったが、今回は理念も含めてご説明いただいたのでこれから評価するうえでも参考になる。昨年度、突如でてきた「福知山モデル」の理解に苦しむところがあったが、先ほどの説明で理解が進んだ。その視点でどのように教育の社会貢献が進んでいくかを見ていくことができると感じた。

(委員)

評価委員は、法人が提出する実績報告でしか評価ができない。補完するものとして、報告書などをいただいているが、学内におられる方は実績報告に書いていないこともたくさん仕事をしておられる中で、実績報告にはできるだけ分かりやすく、大学の想いを込めて、どのような目的でその取組をしたかといったことを記述いただきたい。

(委員)

この6年間ほとんど大学に足を踏み入れていなかったもので、この一年はできるだけ大学に関わっていきたいと思っている。学校の雰囲気やまちは味わっていきたい。大学の事業で関われるものがあれば参加したい。

(委員)

評価委員になったことを機会に、公立大学の教育内容をしっかりと勉強させてもらい、大学の良い部分を広めていくきっかけにしたい。地域の教育機関として、地域に貢献できる人材をどう育成していくかということは共通した点であるし、互いに協力し、福知山市が北近畿の中心都市と見られるようなまちづくりをやっていくことが大切であると思う。

(委員)

教育、研究、社会貢献は大学にとって非常に大きな使命であると学長から話があった。大学にいたものからすると、教育は教育、研究は研究、社会貢献は社会貢献で、この3つが連携できていない状況であると肌で感じていた。文部科学省からはPBLやアクティブラーニングを教育にとり入れるように示されている。そのような教育のフィールドに地域を単に選ぶだけでなく、そのこと自体が実は地域貢献になる、社会貢献になっていくというような動きができていくと非常に良いのではないかと。第1期中期目標期間の足跡をみていると、その教育の一環で地域にも出ていき、社会貢献につながっている例が何件かあった。それをまたさらに第2期中期目標期間に深めていただくのがよいのではないかと。研究は福知山市、北近畿に根差して文理連携型の貢献ができるような体制をつくって欲しい。教育、研究、社会貢献が三位一体になった「福知山モデル」ができることを期待している。

6 閉会